

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	人間文化研究機構 国立民族学博物館
日本側コーディネーター所属・氏名	人間文化研究機構 国立民族学博物館・文化資源研究センター ・園田直子
研究交流課題名	アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流
相手国及び拠点機関名	タイ、ガンチャナピセーク国立博物館 ミャンマー、文化省国立博物館 モンゴル、モンゴル科学技術大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】

博物館は、単に資料を収集・保存・展示するだけの場ではなく、特に途上国においては国家・民族としてのアイデンティティを確立する場であり、また観光振興の要として、教育施設として、あるいは戦乱・災害からの復興の拠点としての役割を持つ。そのため、アジア・アフリカにおける自立的・持続的な博物館活動ならびに人材育成は、緊急の課題となっている。

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立民族学博物館は、過去18年間、途上国を対象に、博物館学ならびに博物館の実践的技術を学ぶ研修を実施してきた。研修に参加したアジアの国ぐにのうち、タイ、ミャンマー、モンゴルでは、日本で研修を受けた人びとの間で国内ネットワークが構築されており、自国の文化的・社会的背景に即した博物館学・博物館研究を模索しているところである。

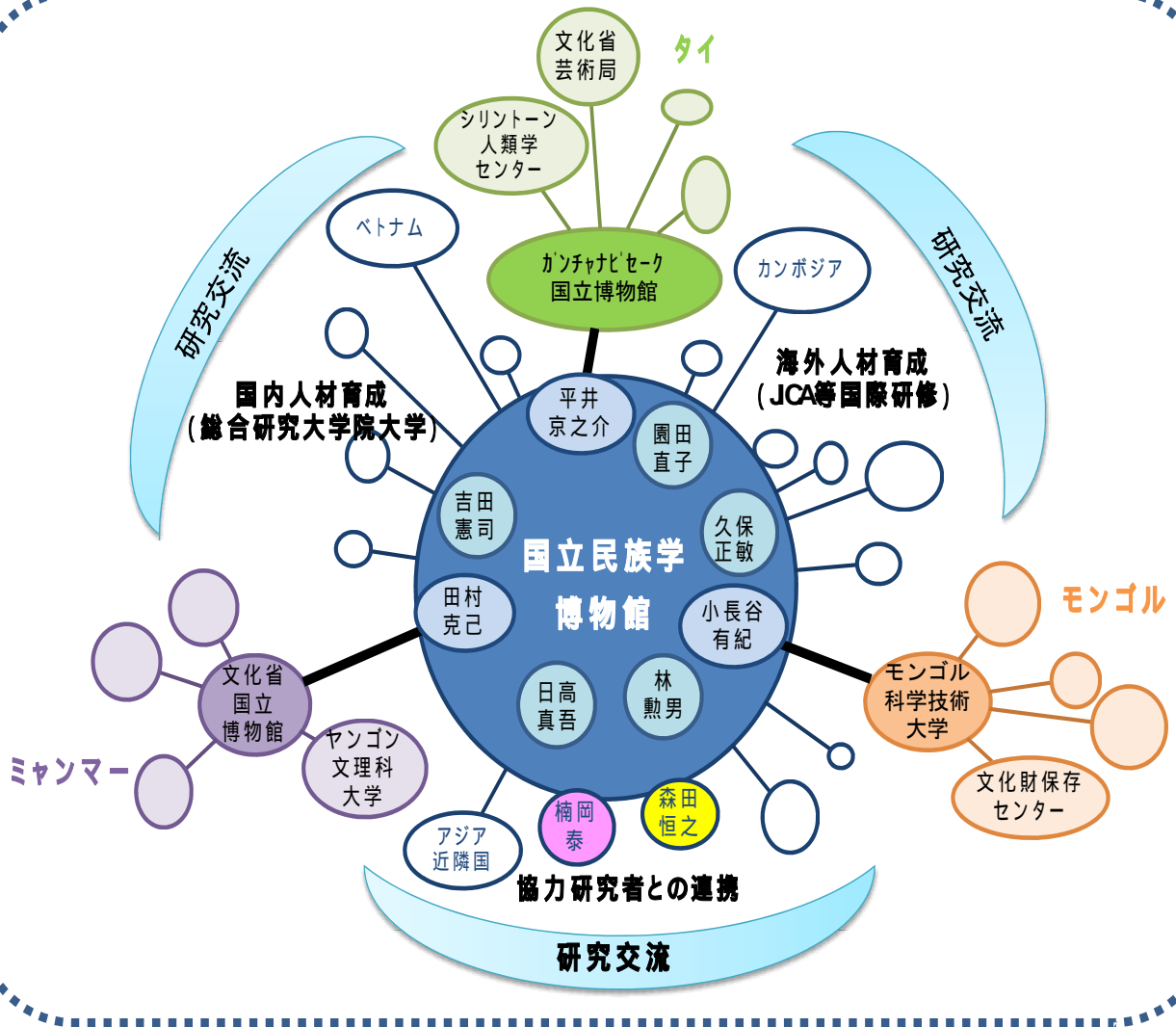
本事業では、国立民族学博物館が今までに培ったネットワークの新たな展開として、若手の人材育成を視野に入れながら、博物館学を中心とした実践的な学術基盤の形成をはかる。タイ、ミャンマー、モンゴルで博物館学の教育研究を行い、博物館活動や人材育成の中核をになう専門家とともに、日本をふくむ4カ国での博物館学の研究成果や博物館活動の事例を共有し、共通の基盤をつくる。そのうえで、従来の受動的立場（「展示される」側）から主体的立場（「展示する」側）へと変容する、現代のアジアにおける博物館の潮流を明らかにし、アジア独自の博物館学・博物館研究のモデルをつくりあげる。

本事業の最終目標は、今までの欧米主流の博物館学・博物館研究とは異なる、アジアの文化的・社会的背景に即した独自の博物館学・博物館研究が創出されることであり、そのうえで、タイ、ミャンマー、モンゴルにおいて自立的・持続的な博物館活動ならびに人材育成の研究基盤が形成されることである。

【研究交流計画の概要】

- ① 共同研究を、年1回開催する。開催地は、初年度はモンゴル、次年度はミャンマー、最終年度はタイとする。共同研究は、日本と開催国双方の博物館学・博物館の専門家や教育研究者による研究成果や博物館活動の事例で構成し、共同でアジア独自の博物館学・博物館研究のモデルをつくる。
- ② 共同研究開催地において、共同研究のメンバーによる「次世代育成セミナー」を開催することで、若手人材の育成に寄与する。最終年度には、共同研究の成果を検証し、今後の研究の展開をはかるために、タイ、ミャンマー、モンゴルのコーディネーターならびに中核的研究者を日本に招へいし、国際シンポジウムを開催する。
- ③ 日本、タイ、ミャンマー、モンゴル間の研究者ネットワーク構築と共通の基盤形成のために、海外のコーディネーターとともに、日本を含む関連4カ国ならびに、ベトナム、カンボジアなど文化的関連の深い周辺諸国において、博物館活動ならびに人材育成の現場を現地調査する。

[実施体制概念図]



アジア独自の
博物館学・博物館研究の創出

自立的・持続的な
博物館活動ならびに人材育成の研究基盤形成